

歸の相談コーナーだより

NO. 321 2012. 3. 1 発行

岩見沢市志文町 794 番地

いわみざわ室内公園「色彩館」

身近な樹木 “ムラサキシキブ” (紫式部)

～紫色の実をつけた姿には趣がある～

ムラサキシキブは、クマツヅラ科ムラサキシキブ属の落葉低木で、通常高さは2～3mでまれに5mとなり、幹は叢生して半円形の樹形となります。花は6～8月、葉腋から出る集散花序につき、淡紫色または紫色の小形の花をたくさん咲かせ、果実は10～11月に5mmほどの球形の実を成熟させます。北海道の南西部から本州、四国、九州の冷温帯や暖温帯の低い山地や野原に広く自生しています。変種として、葉の長さが10～20cmと大型のオオムラサキシキブがあり、これは伊豆諸島や南四国・南九州・沖縄諸島の海岸沿いなどで見られます。品種としては、花も果実も白いシロシキブ、果実の小さいコミノムラサキ、葉が小形のコバノムラサキシキブなどがあります。類似種としては、小振りながら紫の実をたくさんつける美しいコムラサキが山野の湿地などに自生します。また、四国・九州に分布し、葉の両面に腺点のあるトサムラサキ(別名ヤクシマコムラサキ)なども知られています。

ムラサキシキブの名の語源ですが、優美な紫色の実をつけることから、「源氏物語」の作者である才媛、紫式部の名をかりて美化したものです。古くは、「大和本草」によれば『玉ムラサキ、葉は茶に似たり、又桑の如くにして頗る大なり、枝長し、紫の実葉ある所ことに両にわかれてあり、実の大きさ胡椒より甚小にして一所に二十四五粒あつまる、葉と実と一処にありて葉も実も一所に両々相對す、漢名不知、京にて紫シキミと云、筑紫にて小紫と云ふ、小樹なり。』とあり、紫シキミの名を後年美化したものでしょう。また「夫木集」では、コメゴメの名で次のような歌があります。『秋ふかき山の夕霧こめこめにおのれも色やまつかはるらん』



Callicarpa japonica THUNB.
ムラサキシキブ

ムラサキシキブの用途は、果実が大きく美しいので、庭木や公共緑化樹として盛んに植栽されます。また、材は箸、洋傘の柄、杖などに利用されます。

繁殖と栽培法ですが、ムラサキシキブの類は挿し木による増殖が可能です。春挿し、夏挿しともに容易に発根します。特に夏挿しは発根もよく、秋には早くも果実をつけた苗木も得られます。挿し床の用土は、赤玉土、鹿沼土、川砂、水苔などいずれもよく発根します。実生もよいですが、果実を10月頃の早めに採取することが注意点です。遅れると野鳥が好んで食べることから果実を失ってしまうことがあります。

渡されし紫式部淋しき実 星野立子

実むらさき人恋ひの色濃くしたり 加藤三七子



公園だより

バラ園

昨年暮れの大雪は年が明けてからも続き、岩見沢の積雪は2月に入っても記録更新を続け、観測史上かつてない豪雪の年となってしまいました。市民の皆さんには、毎日の除雪作業や屋根の雪下ろしに疲れきってしまった人が多いことと思います。市民生活にも計り知れない影響がでていますが、3月はいよいよ春の訪れが間近な季節です。もう少しの辛抱ですと自他ともに言い聞かせ、一日も早い融雪を祈りたいものです。しかし、融雪が進むときには、降り積もった雪の沈降圧により、庭木の枝折れや枝抜けなどの雪害も心配されるところです。融雪後は、これらの被害木の早急な手当も必要です。倒れた樹木を縄などで引っ張り起こす雪起こし、裂けた幹の外科的治療などが必要かも知れません。

♥ **今月のバラ園からの一口メモ**は、寒冷地での春の作業についてです。3月になると雪解けが始まり、バラは少しずつ目を覚ましてきます。雪解けの早い年なら、下旬頃から4月にかけて元肥を入れます。また、横倒し式の冬囲いでは、雪起こし作業が始まります。冬囲いから解放されたバラ達の剪定作業も順次行って下さい。早めに送られてきた春苗や芽接ぎ苗も防寒対策をしてやれば栽培できます。こうして置いて、4月末から5月には定植します。やはり早い方がこの年の生育も良いのです。

室内公園色彩館では、春の日差しを待ちわびていたハナミズキの蕾が三月になっていよいよ開き始めました。日米友好の証の樹木として知られるハナミズキですが、日本では女性に特に人気のある花木です。外はまだ雪ですが、鉢植えの四季咲きバラや壁面のツルバラが咲き始めました。

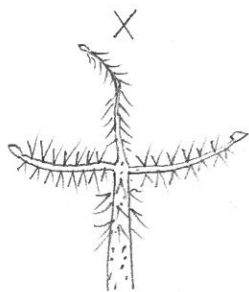
南国温室では、四季なりミカンやユズが色づき、実っております。パパイアの実もたくさんなってきました。アンズリュウム（オオベニウチワ）やストレリチア（極楽鳥花）、カラーの花々も咲き続け、ここは南国の別世界です。

相 談 日 記

問 日本の原風景になくてはならないマツの木について伺います。公園のマツの木や庭木あるいは海岸の松林などを見ていて気づいたのですが、日本のマツをみると幹が曲がっているものがほとんどのようです。外国産のマツは比較的まっすぐ立っているものが多いのに、日本のアカマツやクロマツはどうして曲がっているものが多いのでしょうか？その訳などを知りたいのですが。

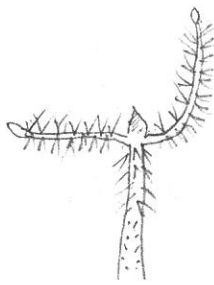
答 本来、樹木の幹はまっすぐ上に伸びようとしています。それが樹木にとって一番安定した形だからです。しかし幹の梢端が何らかの損傷を受けて枯れると、最も高い位置にある強い横枝が上に曲がりながら成長して、傷んだ幹の代わりをしようとします。そして樹木は、元の軸の真上に新しい幹の先端がくるように戻そうとするのです。このようなことが何度も繰り返されると、樹木はぐにゃぐにゃに曲がった形になりながらバランスをとって安定した状態を保とうとしているのです。

ところで日本の代表的なアカマツやクロマツですが、これらは特に曲がったものが多いですね。外国産のマツはまっすぐに立っているものが多いのに、不思議に思われるのも無理はありません。この原因は、日本にはマツツマアカシンムシなど通称シンクイムシと呼ばれる害虫が多いため、マツの先端の新梢が被害を受けるのです。このため、マツは先端が枯れると、最も高い位置の側枝の中の強い枝が、上方に曲がりながら他の側枝よりも優勢に成長して、新しい幹になるのです。その結果曲がった樹幹ができるのです。多くの針葉樹は、先端の頂芽が上に伸び、側芽は横方向に伸びます（頂芽優勢）が、先端の頂芽が損傷すると、側枝の中で最も上にある強い枝が新しい主軸になります。日当たりを好むマツの木は日光や生育空間を求めて曲がる場合もありますが、日本のマツ（特にアカマツ、クロマツ）が曲がっている原因はシンクイムシによる新梢の被害によるものが圧倒的に多いようです。

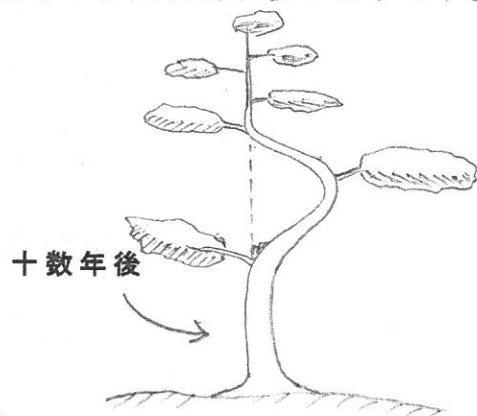


シンクイムシにより

頂芽が枯れる



側芽が立ち上がる



ランの名がつくがユリ科の植物～オリヅルラン 花言葉 気の多い恋



ユリ科クロロフィタム（オリヅルラン）属の常緑多年生植物で、別名チョウランとも呼ばれます。原産地はアフリカですが、観賞用の栽培植物として古くから親しまれてきました。葉の間から長い枝を出して多くは分岐し、先端に葉を出し、さらに根を出して新しい株を作ります。属名のクロロフィタムはギリシャ語の chloros（緑）と phton（植物）に由来し、日

本名は「折り鶴蘭」の意味で、観賞用に釣り下げておくと、茎が垂れた先に新株のついた姿が、いかにも折り鶴を糸で釣ったように見えるのに例えたものです。

丈夫で育てやすく、古くから釣り鉢で親しまれてきましたが、多くのランナー（ほふく枝）を出させるように育てるのがお勧めです。最近では、斑入り品種などが多く出回っていますが、覆輪のソトフオリヅルランや、葉幅が広く中央に斑の入るヒロハナカフオリヅルランはランナーが出ますが、小型のシャムオリヅルランはランナーが出ませんので、購入するときには注意しましょう。

3～4月の園芸講座・行事案内

市民園芸講座の内容紹介

♣ 家庭果樹の楽しい管理

日時 3月 4日（日） 13:00～15:00

講師 中央農業試験場 内田 哲嗣 さん 定員 40人 参加料 無料

♣ 室内公園のバラ・花木類の観賞

日時 3月18日（日） 13:00～15:00

講師 緑化相談員（樹木医） 泉 征三郎 定員 40人 参加料 無料

♣ ハンギング作りの基本

日時 4月15日（日） 13:00～15:00

講師 月形コテージガーデン 梅木あゆみ さん 定員 40人 材料代 1500円

♣ 楽しい家庭菜園作り I

日時 4月22日（日） 13:00～15:00

講師 園芸研究家 横山 弘 さん 定員 40人 参加料 無料



編集・発行 北海道グリーンランド（空知リゾートシティ株式会社）

お問い合わせは 室内公園「色彩館」緑の相談コーナー 25-6111 まで